令和６年度学校経営構想

１　はじめに

重点目標を変えた。これからの多様で予想不可能な社会では、これまでにない能力が必要となり、従前の教育や学校という限られた殻の中だけでは十分育成できない。多種多様な人と考えを深め課題解決しながら協働したり、社会に発信したりするなどの新たな資質能力が必要となる。生徒たちには、培った基礎基本をもとにして、中学校という殻を突き破り、小学校や地域社会など学校外に飛び出し、よりよい社会を創造していく資質能力を育んでほしい。しかし、以上のことを実践していくことは容易なことではない。言うまでもないが教師の工夫や創造する力が重要となる。新たな学びに大いに期待したい。

２　令和６年度の基本構想

本校はこれまで、生徒に対して何事にも挑戦する姿勢や自ら主体的に取り組むことの大切を伝えてきた。また、その取り組みを通して新たな自分を見つけ、困難にくじけない、たくましい人に成長してほしいと願い学校教育目標を定め実践してきた。

しかし、コロナ禍等の影響により、実践が伴わないことが多かった。コロナ禍の終焉も近づき令和６年度は新たな学校づくり元年と位置付ける。

〇学校教育目標

『自ら学び　共に生きる　たくましい生徒』（令和元年度より、来年度６年目）

それぞれの目標で期待する生徒像

「自ら学ぶ生徒」・・・学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的に学ぶ」生徒。

「共に生きる生徒」・・思いやりの心や感動の心を持ち、集団の中で一人一人の存在感が認められ、相互に高め合っていくとともに、地域に生きる人として、地域社会のために貢献しようとする「主体的に行動する」生徒。

「たくましい生徒」・・「自分が自分であって大丈夫」という自己肯定感をもち、何事にも失敗を恐れず、勇気をもって取り組むことで、自分の可能性を見つけ、広げようとする「主体的に挑戦する」生徒。

〇重点目標　　「飛び出そう！　風光る　緑の里へ」

「自ら学び深めることを通して、仲間と共に学校や地域社会のために行動できる生徒」

〇学校経営の基本方針

(1)　「生徒が主役」の学校をつくります

－行事の企画や運営に生徒を参画させ、生徒が主役となる－

(2)　「主体的な学び手を育てる授業」をつくります

－授業改善に取り組み、総合的な学習から教科へ－

(3)　学校、地域、家庭が連携し、「地域と共に子どもを育てる学校」をつくり、「持続可能な社会の創り手」を育てます

－授業や地域部・生徒会活動を通じて、地域を巻き込む活動－

(4)　学校改革を推し進め、南部中に勤務する「職員が幸せ」を感じられ、それが「子供の笑顔や幸せ」につながる学校をつくります

－教育課程の見直し、平日部活動をもって働き方改革は終わり、次の学習指導要領までに全教育活動の質を見直す－

〇　経営の重点

(1)　基本方針１に対して

ア　「主体性」をキーワードに、全ての教育活動を「主体的に行動し、自分の良さや可能性に気付くことができる生徒」を目指したものにしていく。

イ　学校生活全般において、生徒自身が「自己決定する・集団決定する」機会を可能な限り用意し、「生徒の生徒による、生徒のための学校創り」を行う

ウ　新規不登校生徒を生まないようにするために、全ての生徒が学級内で自分の存在や発言が受け入れられているという「心理的安全」を感じられるよう、「居場所づくり」と「絆づくり」に意図的、計画的に取り組む。

エ　生徒に失敗を恐れず、勇気をもって挑戦する「トライ＆エラー」を推奨する。教師も信じて、任せて、認める「信・任・認」のスタンスを大切にすることにより、生徒の意欲や粘り強い取り組みを引き出す。授業では、「分からない」が言える環境を教師と生徒で作り出すなど、安心して失敗できる環境を与えることにも配慮する。

(2) 基本方針２に対して

ア　学びのハンドルを生徒に与え、「教師が教える」から「生徒が自ら学ぶ」授業を意識し実践する。

イ　正解が一つではない問いや、生徒にとって魅力的な課題を用意したり、時には生徒自らに課題を設定させたりし、主体的に課題解決（探究）に取り組む場面や、１人１台端末を効果的に活用し、学習の成果を仲間に発表する（プレゼンテーションする）場面を意図的に設定する。ＩＮＰＵＴ中心からＯＵＴＰＵＴ中心の授

業への転換を図る。

ウ　生徒自身が学びの定着度を知る「メタ認知」を促す。その上で、授業や家庭学習において、個に応じて取り組む課題を変えたり、自分自身で取り組む内容を選択したりできるような「個別最適化な学び」を推進する。

エ　校内研修において、生徒の主体性を引き出す様々なアプローチについて研究・実践する。

(3)　基本方針３に対して

ア　学校公開週間、各種行事を利用し、学校に来てもらう、見てもらう機会を可能な限り設け、広くご意見を伺う。また、学校 HP や便りを使って、積極的に情報の発信に努める。

イ　コミュニティスクールの機能を生かし、CSD、学校運営協議会委員、PTA 役員の皆様の力を借りながら、地域人材に学校の教育活動への積極的な参画をお願いする。また、地域からのボランティアの要請等には積極的に協力し、ＷＩＮ-ＷＩＮの関係を構築する。

ウ　生徒が地域と積極的に関わり、そこにある課題を発見し解決したり、地域貢献したりする機会をできる限り創出するために、授業や特別活動、生徒会・委員会活動、部活動等の中で ESD、SDG s を意識した積極的な取組を考え、実践する。

(4)　基本方針４に対して

ア　「先生（大人）の幸せが子供の笑顔をつくる」を合言葉に、教師が常に生き生きとした表情で子どもの前に立てるよう、業務の精選、カリキュラムマネジメントを進め、残業時間の上限目安月 45 時間、年 360 時間の達成を目指す。

イ　職員が「利他の心」を持ち、相手を思いやりながら、忙しい時や困った時にはお互いが協力し合える協力体制や、何でも言い合える風通しの良い職員室の雰囲気作りに取り組む。

ウ　スクラップアンドビルドの考え方を常に持ち、無くすべきものは無くしていく方向で考える。また、学校が行うのではなく、外部に任せられるものについては、できる限り任せていく。ビルドについては、「生徒にとって有益である」というだけではなく、教師がやりがいを感じられ生徒や教師がわくわくできるような活動であるかどうかという視点に立って考えていく

エ　部活動の地域移行が段階的に進んでいく中で、本校の部活動の在り方についてもさらに改善していく。本年度から特定の部活動において、部活動指導員を配置し、土日の部活動を地域の指導者に任せていく研究を進めていく。また、他の部においても指導のサポートができる外部指導者を発掘していく。